



實性

平成三十年 第二号 春彼岸発行

春

のお彼岸のご案内

お彼岸の由来

「暑さ寒さも彼岸まで」といいますが、朝夕に温かさを感じられるようになりましたこの季節、春のお彼岸を迎えます。

春のお彼岸は、春分の日（お中^{ちゅうにち}日）を中心とした一週間をさしますが、そもそもお彼岸とは「彼^かの岸^{きし}」すなわち極楽浄土を意味します。それ相對する「此^この岸^{きし}」は、すなわち私達の世界です。「彼の岸」の極楽浄土は西方にあつて、「お日さま」が真西を正しく示す「春分の日」「秋分の日」がこれにあたります。

「観無量寿經」というお経には、「日想^{にっそうかん}観」といって、夕陽の先に極楽浄土を思い浮かべる仏道修行のひとつが説かれています。この最も適した日が「お日さま」が真西に沈み、極楽浄土のありかを示す、春分秋分の日こそが修行の好機でもあります。

私共は、日常の生活、仕事に追われ、なかなか自分を見つめ、自分を育んで下されたご先祖様へ感謝し、また、先立たれた方々へのご回向するためにも、お彼岸の一週間、手を合わせ「お念仏」をお唱えしたいものです。

彼岸会法要

●三月二十一日（水）お中^{ちゅうにち}日

午前十一時より

参加費（お布施） 五千元



お彼岸入り 三月 十八日（日）

お彼岸中^{ちゅうにち}日 三月二十一日（水）

お彼岸明け 三月二十四日（土）

皆様お揃いで是非ご参加下さい。

法然上人涅槃図

一月二十五日は宗祖法然上人の御命日です。各総本山では四月に忌日法要厳修されます。この法要を「御忌」と読みます。

左図の「法然上人涅槃図」は、法然上人の入滅の時が描かれています。

大勢の弟子にかこまれ、合掌なされ、「南無阿弥陀仏」のお念仏を弟子と共に唱えられながら念仏往生なされました。



法然上人涅槃図

修正会報告

年の初めの最初の法要「修正会しゆつしやうえ」が例年の通り一月三日に厳修されました。

国家安泰・日月照明・家内安全・無病息災・心願成就・先祖代々の追善等をお祈り申し上げ、皆様と共に勤めをいたしました。絵馬にはそれぞれの願いをお書きいただき、奉納いたしました。

清宴（新年会）では、筆頭総代遠山長昭殿のご挨拶そして衆議院議員・實性寺総代でもあらわれる鴨下一郎先生にも新年のご挨拶をいただきました。又、柳家我太楼師匠の司会進行のもとビンゴゲームをお楽しみいただきました。

来年度の修正会も皆様のご参加をお待ちしております。



二月十五日は、お釈迦様の亡くなられたご命日です。左図の涅槃図は、お釈迦様の入滅のご様子が描かれています。

お釈迦様は、伝導の旅の途中、病にたおられ、死期を悟られ、沐浴をされ、沙羅双樹の林の中に横たわれ、最後の説法をなされました。

頭を北に、顔を西に向け、十大弟子、老若男女、鳥獸たちさえも嘆き悲しむ様子、また、忉利天より駆けつけられたお釈迦様の母君、マヤ夫人の姿も描かれています。

この涅槃図も本堂内にお祀りしていますのでどうぞお参り下さい。

釈迦涅槃図



涅槃図の猫

涅槃図には鳥獸が多く描かれています。猫の姿が無い絵が多くあります。描かれない理由は諸説ありますが、ひとつ紹介いたします。

お釈迦様が入滅なされることを知った諸仏諸菩薩、天部衆等あらゆる人々、お弟子様達かけつけるなか、鳥獸達も急いで参集いたしました。猫は、お釈迦様にお会いするということでご念入りに化粧していたため遅くなってしまう間にあいませんでした。ゆえに、涅槃図に描かれず、そんなことで、そんなに化粧が大事なら一生化粧をしないさという事で、いつも毛づくろいしているそうです。

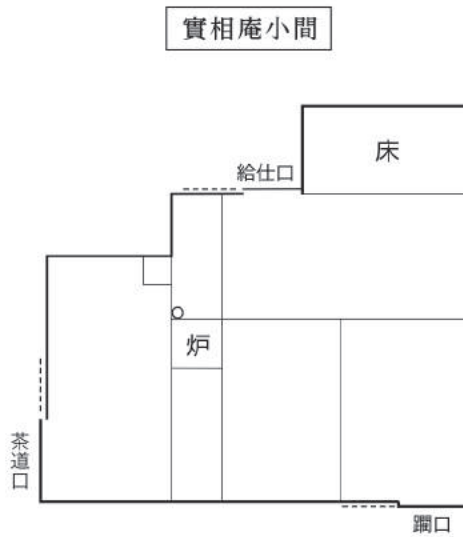
また、十二支に猫が入っていないのも、そのためとの説もあります。時代が上ると涅槃図に猫が描かれるようになりましたが、あらゆる生き物の命は、みな平等で尊いというお釈迦様の教えからきています。



實性寺 表千家茶道の2月稽古

〓 實相庵小間での稽古 〓 5日間に分けて〓

實相庵



【稽古内容】

- 一、初炭 盆香合
- 一、濃茶 茶通箱 唐物 続き薄茶
- 一、後炭
- 一、薄茶 替茶碗

【道具組】

- 【掛物】 兼中斎宗匠画讃 桃の花「桃唇日向開」
- 【花入】 輪無し二重切 木地丸香台
- 【釜】 小阿弥陀堂
- 炉縁 杉木地
- 五徳 鬼爪
- 【香合】 信楽大鷲
- 炭斗 油竹
- 火箸 少庵型
- 灰器 備前
- 灰匙 少庵型
- 【水指】 瀬戸一重口
- 【茶入】 茄子 広州窯
- 仕服 いちご裂



〔茶碗〕

赤 席手作り
志野筒

宗心宗匠絵付 阿漕焼

〔茶杓〕

銘「つくし」

〔茶器〕

桜樺 席主梅の絵 中次

建水

曲

蓋置

竹引切

〔菓子器〕

溜塗朱松葉ヤンポ

〔干菓子器〕

七宝絵升形

菓子

とらや「月ヶ瀬」「志良々の浜」「椿餅」

「下田の春」「外の濱」

干菓子

「ゆべし」「巻柿」「二人静」

苺盆

一閑櫛形つぶ足

火入

香炉釉

苺入

ベトナム製

濃茶

「祥雲の昔」「錦上の昔」

薄茶

「珠の白」

柳桜園

柳桜園



【稽古の要点】

〈初炭〉

● 中柱中釘に羽根を掛ける。

釣棚下段に香合を飾る。

● 炭斗灰器を運び、中柱に向かい左手で羽根を

とり、あつかって左手に受け、炉正面へ。釣

棚にさらに向かい、香合をとり廻って、炭斗

下定位置に。

● 釜は、台目切ゆえに下座まで引く。

● 炭斗を下げるとすぐに座掃を持ちだし、道具

畳と炉の右炭斗の後も掃く。茶道口を閉める

と膝前を掃き、水張口を開け掃き出す。

〈盆香合〉

● 釣棚下段に盆香合を飾る。

● 香合を拝見に出す時、席が中板ゆえに通常炭

手前同様に中板を超えた所に出す。

〈続薄茶〉

● 濃茶が終わり、建水を下げ、給仕口より苺盆、

干菓子を出し、茶器と替茶碗を持ち出し、水

屋に下がり建水を持ち出す。

〈客〉

● 小間にて茶碗、拝見物はにじつてあつかう。

尚、3月の稽古は、広間聴松軒（残月写し）にて、「お茶湯」「茶力フキ」を中心とした稽古を行います。

大本山増上寺節分会

増上寺の節分会は、大変盛大に厳修されております。

一八〇名の年男年女、文化人、芸能人、角界の力士親方等が参加するので有名です。

豆まきも四回、五回に分けて行われます。本年も實性寺のお檀家様二名様が参加されました。

徳川家康公の念時仏「黒本尊」前に大僧正の御祈願会法要、豆まき、祝膳、余興等楽しく過ごされました。

増上寺節分追儺式



故 新関 仁様仏 画奉納作品



花まつり

四月八日(金)は、お釈迦様がお生まれになられた誕生日です。「灌仏会」といいます。お釈迦様の誕生をお祝いし、誕生仏に甘茶をかけお祝いいたしましょう。

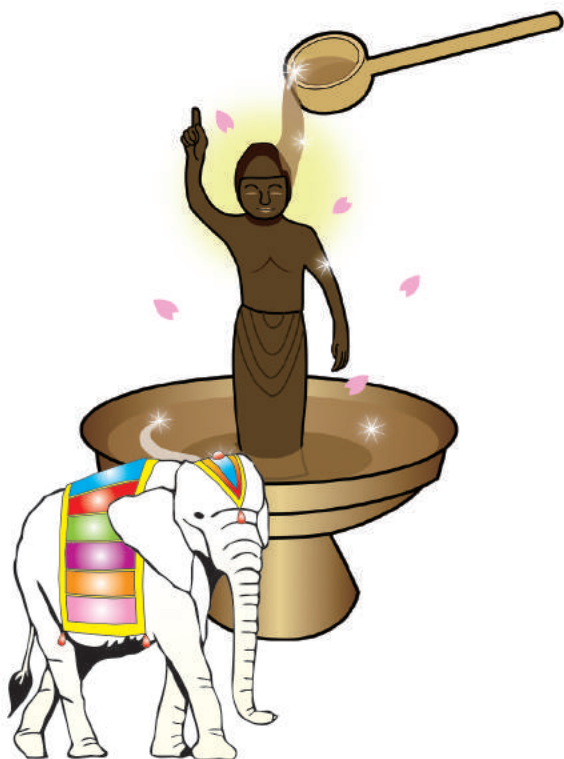
お彼岸より本堂前(御拝)に花見堂が出ておりますのでどうぞお参り下さい。

(お参りいただいた方に甘茶ティーパックを差し上げています)

● 日時 三月下旬より四月上旬まで

午前十時より午後四時まで

● 場所 實性寺 本堂前(御拝)



【故新関仁様仏画ご紹介】

故新関仁様の絵画を奥様の新関實知子様よりご奉納いただきました。作品をご紹介します。



今年も境内に紅白の梅や水仙が咲き始めました。これから季節多くの花が咲きますのでご覧下さい。

境内の

花



☆ご法要等のお塔婆を建立される方は、遅くとも十日前迄にお申し込み下さい。お電話よりファックスの方が正確です。ご利用下さい。

ファックス番号 03(3883)3227

振替口座 00190-6-258873

※振込用紙をご入用の方はお申し出下さい。

〒121-0061 東京都足立区花畑三十七-十八
電話 03(3883)8866

浄土宗 實性寺

<http://www.jisyoji.com>

